

化学技術者としてのコンピテンシー育成に向けた取り組み

Competency Development Program for Chemical Engineers

名城大理工[○]丸山 隆浩, 坂東 俊治, 坂 えり子, 大脇 健史, 永田 央, 藤田 典史,
小澤 理樹, 田中 正剛, 池邊 由美子, 才田 隆広

[○]Takahiro Maruyama, Shunji Bandow, Eriko Ban, Takeshi Ohwaki, Toshi Nagata, Norifumi Fujita
Masaki Ozawa, Masayoshi Tanaka, Yumiko Ikebe, Takahiro Saida (Meijo Univ.)

E-mail: takamaru@meijo-u.ac.jp

現代社会における技術者は、単に専門分野に関する知識を有するだけでなく、コミュニケーション能力、論理的思考に基づく分析・開発能力や成果達成に向けた実践力が不可欠である。しかし、今後のものづくりの現場において実践力・応用力のある人材が不足することが懸念されているにもかかわらず、大学教育の場では依然実践的な教育が不足していることが指摘されている[1]。

名城大学理工学部応用化学科は平成25年の学科開設時より、化学技術者としての専門知識を問題解決や成果達成に結びつけるために必要な能力、いわゆる“コンピテンシー”を育成するためのプログラムを進めている。卒業後、社会で成果を生み出していくためには、単に専門知識を身に付けているだけでなく、様々な知識や技術を有機的に活用して成果に結びつける能力が不可欠である。また、専門分野の能力に加え、文書作成技術・プレゼンテーション能力を含むコミュニケーション能力や環境や安全への配慮を行うことも重要となる。これらの能力をバランス良く習得できるよう、①導入教育での学習の動機づけ、②実技・実習教育の重視、③表現技術の向上、④インタラクティブ授業の導入、⑤他大学の教育状況の調査と学科教育への反映、⑥教員・学生間、学生・学生間の交流の促進、⑦カリキュラムの点検・評価と改善、に重点を置き、従来の知識偏重型ではなく、体験や実践を重視した教育を進めている。本発表では、応用化学科が行っている様々な取り組みについて紹介する。

なお、本プログラムを実施するにあたり、名城大学“教育の質保証プロジェクト”より多大なる支援を受けました。ここに記して深く感謝いたします。

[1] 文部科学省 「大学における実践的な技術者教育のあり方に関する協力者会議」報告書 平成22年6月。